

しんごん

SHINGON

【特集】

仏さまと出会う儀式 結縁灌頂で
曼荼羅世界に足を踏み入れる

Vol.

86

真言宗智山派

目次

- 今日の法語 平澤照啓……………2
- 智山寺院探訪 應珠山長久寺……………3
- 特集 仏さまと出会う儀式 結縁灌頂で曼荼羅世界に足を踏み入れる…6
- お大師さまとご信仰 田村宗英……………10
- いただきますの心 音羽和紀……………11
- 図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏④」
え・悟東あすか……………12
- ゆーけいの写仏をするよろこび
牧 有恵……………14
- 日本の四季を切り取る十七文字
星野高士……………15
- 総本山の便りをお知らせします ……16
- 私の夫はお坊さん 大塚哲子……………18
- ごくらくらくご 三遊亭竜楽……………19
- 仏さまの心を詠う 新堀敏乃……………20
- 読者アンケートから・おしらせ・編集後記…22
- 真言宗智山派出版刊行物のご案内…23
- 曼荼羅の仏たち 小峰彌彦……………24
- 刮目！ 仏教体験記 内藤理恵子……………26
- 花に聞く 仏に聞く 佐々木隆元……………28
- 仏教と妖怪 今井秀和……………29
- やきものをたのしむ 柳田栄萬……………30
- この書の弘法大師 飯島太千雄……………31

■ 仏教について

■ 仏教と文化

■ わたしたちの生活と仏教

■ お知らせ

表紙写真「結願寺の秋」

四国八十八ヶ所霊場、八十八番札所の大窪寺（香川県さぬき市）。本坊の屋根に銀杏の落葉が黄色く積もり、その隙間で瓦が波のように光っています。

夏の日をたっぷり蓄えた落葉は、元の木自身と次の命に、大切な栄養を循環させます。

お遍路の旅もまた、終わりなく巡り続けます。

目次写真「ソバの花」

北海道から九州まで、火山灰の積もった痩せた土地や寒い所でもたくましく育つソバ。

源平合戦に敗れて四国山地の奥深くに逃れた、平家伝説の伝わる徳島県三好市東祖谷。斜面に張り付くように点在する集落の中に、千年の生活を支えたソバの花が、白く可憐に風に揺れています。

撮影・解説／宮武健仁



今日の法語

「流水不腐」

平澤照啓（栃木県宇都宮市・金剛定寺）

「流れる水は腐らない」という意味。

私たちは、過去・現在・未来へと時間が流れていくなかで、何世代も絶えず進化、発展をしてきました。

仏教に関していえば、お釈迦さまの時代から現代までその教えは日々受け継がれ、私たちの心の拠り所となっています。

何ごとにも水のように流れがあり、流れにのることもあれば、流されてしまうこともあります。しかし、そこには必ずありがたいご縁があり、そのご縁があるから私たちは腐らずに日々生活していけるのです。ご縁を大切にしたいものです。



平成十八年に落慶した本堂。 外観・堂内ともに宮大工の技巧が凝らされている。



智山寺院探訪

かんとうじゅういちだんりん
関東十一檀林

ぎょうだし
埼玉県行田市

おうしゅざんちようきゅうじ 應珠山長久寺

おうしゅざん へんがく 應珠山の扁額

やわらかな風に春の訪れ
が感じられた三月のある
日。私はＪＲ熊谷駅から秩
父鉄道に乗り換え、東行田
の駅で降りた。早春の心地
よい日差しを感じながら少
し歩くと、山椿の木陰に閑
かに佇む山門が目に入っ
た。山門の扁額には、應珠
山とある。この扁額の文
字は、智山の教学を興隆し
た学匠として名高い、総本
山智積院第七世 運敵能化
の筆によるものだ。江戸時
代、この山門を多くの僧侶
が行き交い、学問に邁進し
ていたのだ。

——應珠山長久寺。江戸時
代、智山の学僧を育成した
かんとうじゅういちだんりん
関東十一檀林（檀林とは仏教
の学問所）のひとつとして
栄え、多くの能化さま（総
本山智積院のご住職）も輩出
している名刹だ。智積院第
二十二世 動潮能化や、智
積院第二十五世 慈順能化

は、いずれも長久寺の出身である。

長久寺が所在する行田市といえば、小説や
映画に描かれた「忍城の戦い」の舞台となっ
た土地である。長久寺の寺伝には、忍城を築
城した成田顯泰が鬼門鎮護のため、通傳法印
を開山として文明年間（二四六九―八九）に創
建したと伝わる。長久寺が鬼門を封じる忍城



ちさんまうがく そ うんしやうのう け おうしゅざん へんがく
智山教学の祖、運敵能化の筆による應珠山の扁額。江戸時代、仏教の学問所は
檀林。とよばれた。長久寺は智山が有した関東十一檀林のひとつ。



写真左よりご長老の井桁浄継師・住職の井桁精明師・副住職の井桁宗明師



長久寺のご本尊胎藏大日如来。向かって左が不動明王。右が阿弥陀如来。

ださり、本堂内を案内してくださった。

長久寺本堂は平成十八年に落慶し、伝統的な寺院建築技術の粋が凝らされている。ご本尊は胎藏大日如来。左に不動明王、右に阿弥陀如来が立ち並ぶ。そして本堂の東の間にひととき大きな涅槃図が懸けられていた。

は、戦国時代に上杉謙信の攻撃に耐え、石田三成の水攻めにも沈まなかったことから、忍の浮き城として名を馳せた名城であるが、

なるほど忍城が度重なる兵火にあつても落城しなかったのは、成田氏が、武運長久を祈願して名づけた長久寺の冥加があつたからかもしれない。

長久寺の涅槃図 — 火伏せの秀誓さまの伝説

私は山門を潜り、日本晴れの空を背に麓の波が美しい本堂の前で手を合わせた。ちょうどこの日、長久寺はお釈迦さまのご入滅の法要である常楽会が勤修される日で、法要の準備でお忙しいにもかかわらず、ご住職の井桁精明師をはじめ、ご長老の井桁浄継師、副住職の井桁宗明師は私を温かい笑顔で迎えてく

寺の第十世 秀誓法印が中心となり、六九八名の寄進者の誓願を合わせて延宝七年（二六七九）に作成されたものだ。涅槃図の上部には金字の悉曇で「南無釈迦牟尼仏」と記され、図の周囲には、お釈迦さまがお生まれになった場面や、菩提樹下で悟りを開かれた様子、荼毘に付される情景など、お釈迦さまの一代記が描かれている。秀誓法印のお釈迦さまへの敬慕の念は並々ならぬものであったことが感じられた。秀誓法印には多くの伝説が残されているが、その一つをご住職の精明師が語ってくださった。

——ある日、秀誓法印が急に長久寺の山門に登って水をかけた後、本堂で読経をはじめた。弟子がその理由を尋ねると、京都の智積院が火事であり、山門だけでも残さなければ



長久寺の涅槃図は、周囲にお釈迦さまの一代記が描かれている。

と語ったという。後日、京都からの使者が長久寺に参った際、智積院の堂宇が火事によって焼失したが、山門だけが被害を免れたことを伝えたという。火伏せの秀誓さまの神通力を伝える逸話である。

長久寺を見守る — 東向きの光浄さま —

本堂を参拝した後、精明師とともに、歴代住職の墓地をお参りした。その際、精明師は第十三世 光浄法印の伝説についても話してくださいました。

——光浄法印は智積院第二十二世 動潮能化の兄弟子であり、江戸時代に長久寺が火災にあった際、復興に尽力された人物であるが、いまも「東向きの光浄さま」と呼ばれ、地域の信仰を集めている——

「東向き」と呼ばれる由縁は、光浄法印は寺領の東側の境界で起こった土地争いに巻き込まれたことを無念に思い、遷化の際、自身の



写真左端が光浄法印の墓石。東を向いて建てられている。その横には、動潮能化や慈順能化の墓石も見られる。

亡骸を東方に向けて葬るように遺言したという。それ故、歴代先師の墓地のなかでも、光浄法印の墓地だけが西側から東向きに建っており、訴訟のあつた東側の土地を

向いて見ていると伝えられているのだが、私はその方向に本堂が建っていることに気づいた。

——ずっと見守っているのだ。

光浄法印は土地争いに腐心されたというよりも、長久寺が守り伝える仏法が、他愛ない世事に脅かされることを悲観されたのではないだろうか。多くの先師の逸話とともに長久寺の歴史が現在まで守られてきたのも、西方から長久寺を見守る光浄法印の誓願が報われ



仏眼仏母尊 江戸時代の作。高山寺明恵上人の念持仏として有名であるが、彫像としての作例はほとんどない貴重なご本尊。

ているからなのかもしれない。

先師の心を守り伝える

先師墓をお参りした後に、客殿にとおされると、客殿に隣接する仏間のご本尊さまが目にとまった。大日如来さまと思いながら、お近くで拝見すると、頭に獅子の冠を被っており、どうもお姿が異なる。疑問に思っていると精明師が答えを教えてくださいました。

——「こちらは、仏眼仏母尊です。木像としては珍しい仏さまですが、このお寺にお祀りされているのも先師さまの深い想いがあつてのことでしょう。仏眼仏母尊は、仏さまの智慧によつてものごとの真実の姿を見とおす「仏眼」を仏格化した女性尊です。その姿は端然として、類い希な気品を具えています」。精明師は仏眼仏母尊を拝しながら、穏やかな口調で仰られた。

——「智山の檀林としての歴史、そして先師さまたちが大切に伝えてこられた想いをしっかりと受け止め、これからも守り伝えていきたいと思ひます」。

長久寺の確かな将来を見とおすように、仏眼仏母尊は深く安らかな眼差しを向けられている。

二つの長久寺 — 忍城から清洲城へ —

長久寺の第四世 重徹僧正は忍城主松平忠

吉の帰依を受け、忠吉が

尾張国清洲城（愛知県清

須市）へ移る際に伴われ、

清洲にも同名の長久寺を建立している。清洲に建てられた長久寺は、その後名古屋へ移り、徳川家の祈願所として栄えた。名古屋の長久寺は運敵能化ゆかりの寺院であるが、行田と名古屋、兄弟さながらの二つの長久寺は、智山教学を支えた学匠たちを輩出してきた歴史を有している。名古屋の長久寺については次号で訪れるので楽しみに待たれたい。

（智山教化センター所員／伊藤尚徳

撮影／棚澤幸夫）



ご住職の井桁精明師
長久寺の歴史をしっかりと守り伝えていきたいと語る。



ACCESS アクセス

應珠山 長久寺

株鉄鉄道東行田駅より徒歩1分

〒361-0022 埼玉県行田市桜町2丁目20-44

電話 048-556-3603



結縁灌頂は、今から約千二百年前に弘法大師空海が日本に伝えて以来、現在まで脈々と行われている伝統的な儀式です。曼荼羅諸尊との縁を結び、仏さまから皆さんへとその教えが伝わっていきます。そしてその証として血脈が授与され、法名の二文字をいただきます。

特集 仏さまと出会う儀式

けちえんかんじょう まんだらせかい 結縁灌頂で曼荼羅世界に 足を踏み入れる



仏教への関心の高まり

近年、仏教に対する皆さんの興味は、日に日に高まっていると実感しています。以前、仏像が一大ブームになったことがありました。平成二十二年に開催された「国宝薬師寺展」では日光・月光菩薩を一目見たいと人が押しよせましたし、翌年の「国宝阿修羅展」では、長蛇の列を作って、皆さんが阿修羅像の美しさに魅了されました。私もその一人で、長い時間並んで人の波をかき分けながら仏さまにまみえました。

しかも仏像だけに留まらず、広く仏教への興味が高まっているようで、仏教好きな女子のことを指す「仏女」という言葉まで出てきています。今や「あの仏像が好き、この仏さまがステキ」という会話もそう珍しくありません。若者の街渋谷に仏像のフィギュア（人形）を販売するお店まで現れました。お坊さんが出演するテレビ番組も概ね好評のようです。

全国の寺社仏閣を訪れ、御朱印を集める方も最近をよく見かけま



総本山智悲院の御朱印。右は金堂の大日如来、中と左は明王殿の不動明王で、京都十三佛霊場会と近畿三十六不動尊霊場会の二種類があります。御朱印帳は納経帳ともいい、本来写経を奉納した証として御朱印をいただいたことに始まります。

す。私が住職を務めるお寺では、これまで何十年も御朱印を書くことはありませんでしたが、この一年間に何人の方が御朱印をしに訪れました。私たち僧侶は、このようなブームという一過性の現象に踊らされないように気を配ることは大切です。しかし、仏さまを身近に感じて生活をしている人が増えていることは間違いのないことでしょう。

仏さまを身近に感じ、出会う

皆さんは、実際に身近に仏さまを感じ、手を合わせる生活を送っていますでしょうか。お仏壇があるご家庭では、毎日仏さま、ご先祖さま、亡き人に手を合わせていることでしょう。お墓参りに行ったり、法要に参列したり、さまざまなお寺に参拝したり、巡礼の旅に出たり、といったことでも仏さまを感じることができるはずです。お寺で行われているさまざまな仏教体験もその一つでしょう。写経や写仏で仏さまの教えやご尊像を写し取る修行をしたり、阿字観などの瞑想体験、滝行や火渡りなどを行う方もいます。これらの体験ではすべて、体・言葉・



灌頂とは頭頂に水を灌ぐという意味です。写真は檀信徒が菩提寺とご縁を結ぶ発心式の様子。散杖といわれる杖の先についた浄水を頭頂に灌いでいることが分かります。

結縁灌頂という儀式

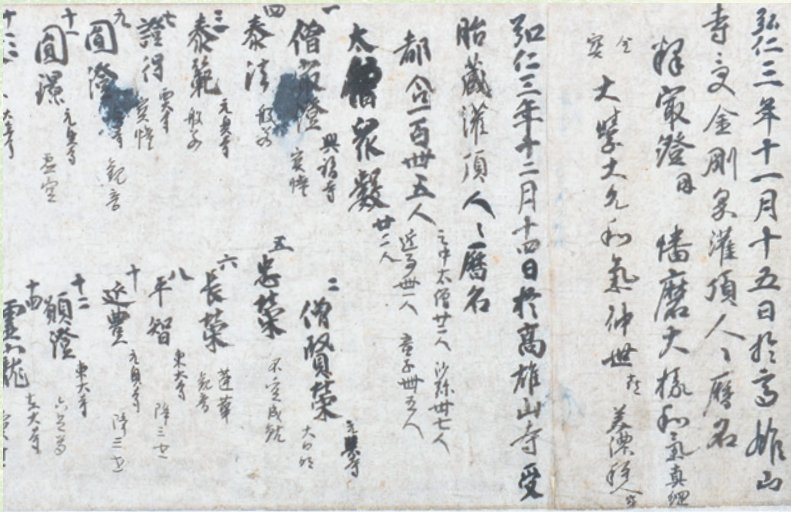
心の三つの行い一つになることで仏さまを感じます。この行いのことを真言宗では「三密」といいます。仏さまと出会うには、この三密によつて修行を行う「三密行」が大切です。今回ご紹介する「結縁灌頂」は、多くの仏教体験のなかでも特に、三密行を体現し、仏さまと出会うことができる儀式です。

灌頂とは「頂に灌ぐ」ということです。

これは昔、インドの王様が即位する時、頭に

大海の水を灌いだことがもとなっていました。結縁灌頂でも、大阿（お導師）さまから受者（皆さん）の頭頂に五智の瓶水（浄水）が灌がれます。このことにより仏弟子（仏さまの弟子）として仲間入りをした、ということになります。

結縁灌頂は、いくつかの段階を踏んだ形式の儀式です。まずは仏さまとのご縁を結ぶために戒を授かり、仏弟子としての戒めを受け



『灌頂曆名』弘仁3年（812）に高雄山寺（高雄山神護寺）で執り行われた結縁灌頂の記録で、弘法大師空海直筆の国宝です。この記録を見ると、最澄は、金剛界は金剛因菩薩、胎藏界は宝幢如来とご縁を結んだことがわかります。写真提供／高雄山神護寺

ます。「素行の善くない人にはご縁を結ぶ資格は与えられません」ということになるでしょう。ですから心を引き締めてこの儀式に臨む必要があります。ご縁を結ぶに値する人物であることを確認したら、次に曼荼羅世界へと入っていきます。これを「引入」といいますが、これから先の世界は、実際に足を踏み入れた方にしか詳細を知ることとはできません。仏さまの教えをしっかりと受けとめる覚悟を持たない、中途半端な気持ちでは、仏さまとのご縁を結ぶことは許されないので。

その様子を伝えるものとして、映画『空海』（昭和五十九年公開 主演 北大路欣也 東映）において灌頂儀式を紹介している場面があります。それは、仏さまとご縁を結ぶ「投華得仏」のシーンですが、興味のある方は是非DVDなどでご覧いただければと思います。

歴史に見る結縁灌頂

平安時代、遣唐使として唐に渡り、恵果阿闍梨から密教の教えを相承した弘法大師空海は、さまざまな経典や法具を携えて日本に戻りました。その中には、灌頂儀式を行うための法具も含まれていました。



血脈には、大日如来から当人まで脈々と真言密教の教えが伝わっていることが示され、仏弟子となった証として法名が授けられます。

日本に戻った空海は、京都の高雄山寺（高雄山神護寺）において、恵果阿闍梨から受け継いだ教えに基づき灌頂を行いました。この灌頂が結縁灌頂といわれています。その結縁灌頂を受けた人のなかには天台宗を開いた伝教大師最澄も名を連ねます。そのことを示す古文書が高雄山寺に今でも残っているのですが、それを『灌頂曆名』といい、空海直筆の国宝です。今から約千二百年前、確かに灌頂儀式が行われていたことを示している大変貴重な文化財といえるでしょう。それだけでなく、この儀式が脈々と伝わり、現在も結縁灌頂が、当時の作法に則った形式で行われていることもまた尊いことといえるでしょう。

教えを受け継いだ証「血脈」

結縁灌頂では仏さまとのご縁を結び、仏弟

子となった証として、^{けちみやく}血脈^グを授かります。これは、大日如来から始まる真言密教の教えが今の私たちにまで受け継がれてきたことを証明するものです。そこには二文字の^{ほう}法^グが書かれています。

真言宗では、師から弟子へとその教えを伝えつないでいくことをとても大切にします。そしてその教えが歪曲して伝わることのないよう、心を配ります。結縁灌頂中にも、そのことに気を付けるようお願いをいただきます。血脈をいただくということは、それだけ大変なことなのです。

総本山智積院の結縁灌頂では、真言宗智山派の管長である化主^{けしゅ}猊下^{いか}から直接血脈をいただきますので、これもまた尊いことです。

曼荼羅諸尊と結ぶ尊い縁

結縁灌頂の中では、曼荼羅諸尊とご縁を結びます。『灌頂曆名』の解説の中でも触れていますが、伝教大師最澄は金剛因菩薩、宝幢如来とご縁を結びました。両界曼荼羅には多くの仏さまが描かれています。金剛界も胎藏界もその中心には大日如来が描かれています。それぞれの役割を担った多くの仏さますべての根本が大日如来なのです。どの仏さまとご縁を結んでも、大日如来に通じるということがいえるでしょう。

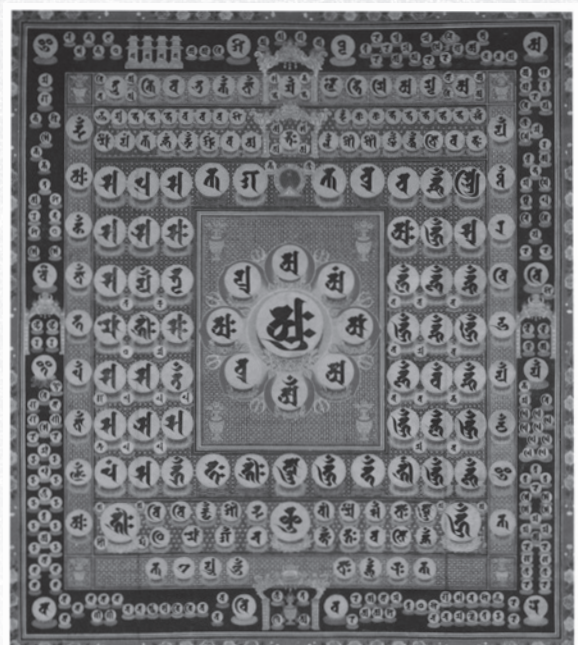
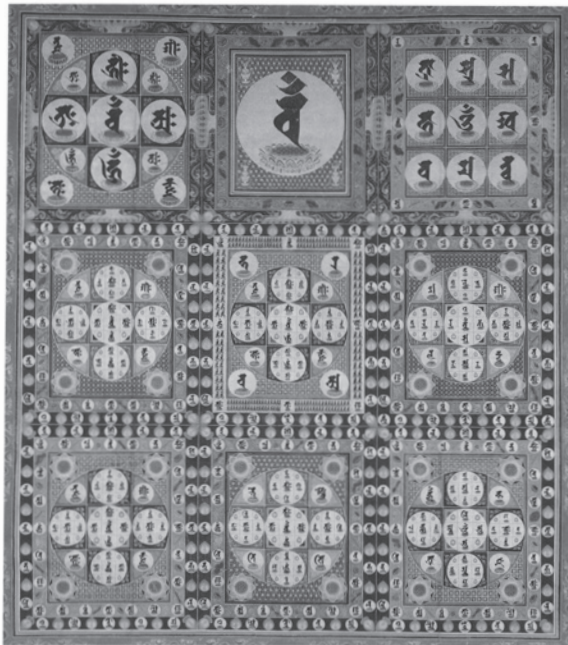
仏さまとご縁を結ぶこの儀式はとても大掛かりな儀式です。多くのお堂を使用して大勢の僧侶による法要や声明も行います。ですから、簡単に行うことはできません。結縁灌頂を受けたいと思われた方は、総本山智積院において一年に一度行っておりまして、菩提寺をとおしてお申し込みください（今年は十一月十九日）。

また、各地の寺院・教会が協力し合い、地方で開催されることもあります。そうした機会にもぜひ参加してみたいかがでしょうか。

このような儀式があることをこの記事をとおして知っていただいたのも、これまたご縁です。ご縁はそれを感じることでそれ自体がとても尊いことだといわれます。皆さまも結縁灌頂で仏さまとご縁を結び、「生きる力」を体得していただければと思います。

（智山教化センター所員／

倉松隆嗣）



「^{りょうかいしゆ}両界種子曼荼羅図^{じんだ らず}」（智積院蔵）この図は実際に結縁灌頂で使われるものとは違いますが、^{けちえんかんじしう}総本山智積院の結縁灌頂では種子曼荼羅がお堂に掲げられます。また、仏さまとご縁を結ぶ「^{けちえんかんじしう}投華得仏^{とうけとくぶつ}」、という儀式の際にも種子曼荼羅の一部が使用されます。曼荼羅諸尊と皆さまがご縁を結んでいただくことによって、仏さまを身近に感じていただくことができるのです。

ち しゃくいん かんげつ え 智積院「観月会」のご案内

日 時:平成28年9月15日(木) 中秋 18時より(17時開場・21時閉門)
於 :智積院講堂

プログラム

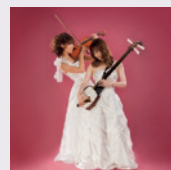
第1部

- ◆声明講演
- ◆瞑想体験
がちりんかん
「月輪観」



第2部

- ◆お月見コンサート
〈出演〉
ハナマス
hanamas
はなわちえ(津軽三味線)
沖増菜摘(ヴァイオリン)



ハナマス
hanamas

チケット

- ◆前売り券 3,700円 ◆当日券 ... 4,200円(枚数限定)
- ◆智積院会館宿泊パック 9,000円(枚数限定) ※但し一部屋2名以上でお願いします。
(通常の宿泊一泊朝食付6,670円に観月会チケットが含まれます)

※チケットは全て月見弁当・お茶付きです

チケットお申し込み・お問い合わせ

TEL 075-541-5363(智積院会館)

詳細は総本山智積院ホームページをご覧ください <http://www.chisan.or.jp/event/list/detail/id=916>

京都

総本山智積院

〒605-0951

京都市東山区東大路
七条下ル東瓦町九六四

TEL 075-541-1153 61

FAX 075-541-1153 64

写経のつどい

毎月21日 13時より

於 金堂

納経料 千円

智積院会館

宿泊料金 6,670円

(朝食・灯明料・税込)

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-1153 63

・JR京都駅よりバス約10分
・京阪七条駅より徒歩約10分



総本山智積院
ホームページ

東京

総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002

東京都港区愛宕一三三八
TEL 03-3443-1110 81

FAX 03-3443-1102 03

愛宕薬師ご縁日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

9月8日(木) 10月7日(金)

11月8日(火)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

9月15日 三遊亭

10月20日 談志一門会

11月17日 三遊亭

12月17日 三遊亭

真福寺阿字観会

昼の部15時・夜の部19時より

於 本堂(無料・要事前申込)

9月27日(火) 10月25日(火)

11月22日(火)

愛宕薬師フォーラム(無料)

9月7日(水) 14時より

「こころは無限の世界を画く」

―華厳経は現代に何を語るのか―

東京大学名誉教授 文学博士／

木村清孝先生

総本山智積院HP <http://www.chisan.or.jp>